

# 内閣府沖縄総合事務局説明資料

---

- 首里城は、全国で17ある国営公園のうちの1つ、国営沖縄記念公園に設置された施設
- 沖縄の本土復帰記念事業の一環として、戦災によって失われた貴重な歴史的文化遺産を復元

## 【国営沖縄記念公園(首里城地区) 概要】

- ・事業着手 昭和61年度
- ・供用開始 平成 4年度(全園開園 平成31年2月)  
(今回焼失した正殿、北殿、南殿・番所等は当初開園区域)
- ・面積 4.7ha  
(うち、有料区域1.4ha ※県による管理区域)
- ・全体事業費 260億円

## 【平面図】



## 【全景】









# 当時の首里城復元事業の経緯



復元後の首里城正殿

## 【主な経緯】

- 昭和61年度 首里城跡約4haの国営公園整備が閣議決定
- 昭和61～63年度 首里城正殿設計委員会及び専門部会（木造、瓦類、彩色、彫刻）の開催
- 平成元年度 首里城正殿等の建築工事起工  
4年度 首里城正殿等が一部開園 (1.7ha)
- 12年度 九州・沖縄サミットの社交夕食会が開催  
首里城跡が世界遺産登録
- 30年度 首里城地区全園開園 (4.7ha)



首里城正殿設計委員会の開催



木工事の状況



彩色工事の状況

# 前回復元時の首里城正殿実施設計委員会の概要

- 復元の形態や手法等を検討するため、昭和61年度から昭和63年度にかけて、学識経験者等からなる「首里城正殿実施設計委員会」を設置。
- 委員会の下に4つの専門部会を設け、木材の調達や職人の確保等の技術的な課題を検討。

## <首里城正殿実施設計委員会>

○三好 勝彦	造園	財団法人公園財団理事
稲垣 榮三	建築	明治大学教授
金多 潔	建築	京都大学教授
鈴木 嘉吉	建築	奈良国立文化財研究所長
高良 倉吉	歴史	浦添市立図書館長
嵩元 政秀	考古	沖縄考古学会長
西村 貞雄	彫刻	琉球大学教授
平野 侃三	造園	東京農業大学教授
又吉 真三	琉球建築史	沖縄県文化財保護審議会長

### (協力委員)

鈴木 正隆	沖縄総合事務局開発建設部営繕調査官
村山 和義	沖縄総合事務局開発建設部公園調整官
石原 憲一郎	沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所長
澤村 宏明	沖縄県土木建築部次長
津留 健二	沖縄県教育長教育次長
中山 晋	住宅・都市整備公団公園緑地部長

※このほか、北殿・南殿・奉神門・御庭の基本設計、城郭の整備、県営公園部分との一体性の確保等について、別途の委員会等を設置

## <木造部会>

○鈴木 嘉吉	建築	奈良国立文化財研究所長
天野 輝久	建築構造	琉球大学助教授
金多 潔	建築構造	京都大学教授
又吉 真三	琉球建築史	沖縄県文化財保護審議会長
山里 銀造	建築	沖縄県文化財保護審議会専門委員

## <瓦類部会>

○伊原 恵司	文化財修復	東京国立文化財研究所修復技術部長
小渡 清孝	地域史	沖縄県地域史協議会会員
高良 倉吉	歴史	浦添市立図書館長
嵩元 政秀	考古学	沖縄考古学会長
照屋 善義	陶芸	沖縄県工業試験場窯業室長
当真 嗣一	考古	沖縄県教育庁文化課主幹
宮城 篤正	陶芸	浦添市工芸美術館準備室長

## <彩色部会>

○稲垣 榮三	建築史	明治大学教授
小西 暁也	漆芸	株式会社小西美術工藝社代表
高良 倉吉	歴史	浦添市立図書館長
名渡山 愛擴	染織家	琉球紅型事業協同組合理事長
平野 侃三	造園	東京農業大学教授
前田 孝允	漆芸	沖縄県工芸産業振興審議会委員

## <彫刻部会>

○田邊 三郎助	美術史	武蔵野美術大学教授
西村 貞雄	彫刻家	琉球大学教授

○は委員長、部会長

※昭和63年度のもの

## ○復元の基本理念

- ・文化的遺産と伝統的技術の継承のため
- ・沖縄県民の心のよりどころとして
- ・郷土史の理解と学習のため
- ・市民の憩いと観光のため

## ○復元の基本方針

- ・1712年に再建された正殿が戦前まで残っていたこと、そして、その間の歴史資料の根拠が比較的是っきりしていることから、「1712年に再建され、1925年に国宝指定された正殿」の復元を原則とする。
- ・「国宝建造物沖縄神社拝殿図」(1933年頃作成)の規模を基本とするが、詳細については今後とも検討を行う。
- ・旧地盤を基本とするが、遺構の保護を考慮して多少の盛土もその範囲とする。

### <首里城正殿の建築経緯>

- 第1期 創建～1453年
- 第2期 ?(不明)～1660年
- 第3期 1671年～1709年
- 第4期 1712年～1945年

## ○復元計画

ももうらそえうどうんふしんつきみえずならびにおざいもくすんぼうき

- ・内部間仕切りなどは「百浦添御殿普請付御絵図并御材木寸法記」(1768年)を根拠に計画を進める。

等

# 前回復元時の復元タイプについて

- 復元に当たっては、歴史的状況や資料・情報の有無、利用方策などの観点から総合的に判断し、整備水準や優先度・重要度の目安となるような復元タイプを設定。  
(特Aタイプの正殿は、躯体を含む建物全体を木造で復元)



タイプ	大分類	定義
特A	復元	遺構、図面、古写真、配置図、事例、聞き取りの成果等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法でより精度を上げて内外部とも復元した建築物。
A	復元	遺構、古写真、配置図、事例、聞き取り等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法で内外部とも復元した建築物。
B	準復元	遺構、古写真(内部写真含む)、配置図、事例、聞き取り等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法で内外部とも復元した建築物。間取りについては、一部想定している。
C	外観復元	往時の間取りは不明であるが、遺構、古写真、配置図、事例等の根拠資料に基づいて外部を復元し、内部は公園機能を重視した建築物。
D	外観想定復元	建物を写した古写真は確認されていない。遺構や配置図、古絵図、事例に基づいて外部を想定復元し、内部は公園機能を重視した建築物。
E	外観再現	建物の位置や規模等を確認できる遺構や古写真はない。配置図、古絵図、事例に基づいて外部を再現し、内部は公園機能を重視した建築物。
F	平面表示	建物の位置や規模等を確認できる遺構や古写真はなく、配置図と古絵図等で建物の雰囲気がかかる程度。建物の輪郭のみを平面的に表示。

沖縄県首里旧城図(※明治初期)に加筆  
※那覇市歴史博物館提供

# 首里城正殿に使われていた木材

※首里城実施設計報告書（平成元年）より

- タイワンヒノキ
  - 下層柱(93本)
  - 上層柱(60本)
  - ※その他、桁・梁等あり
- イヌマキ(沖縄在来種)
  - 向<sup>こうはい</sup>拝柱 8本
  - 向<sup>だいわ</sup>拝部分 台<sup>かしらぬき</sup>輪、頭<sup>ぬき</sup>貫、貫
  - 外壁・霧除け
  - 外部建具
  - その他外部廻り
- オキナワウラジロガシ(沖縄在来種)
  - 小屋丸太梁 6本
- ニホンヒノキ
  - 彫刻部分
- ヒノキアスナロ
  - 造作材、野物材
- スギ
  - 内部建具板、天井板

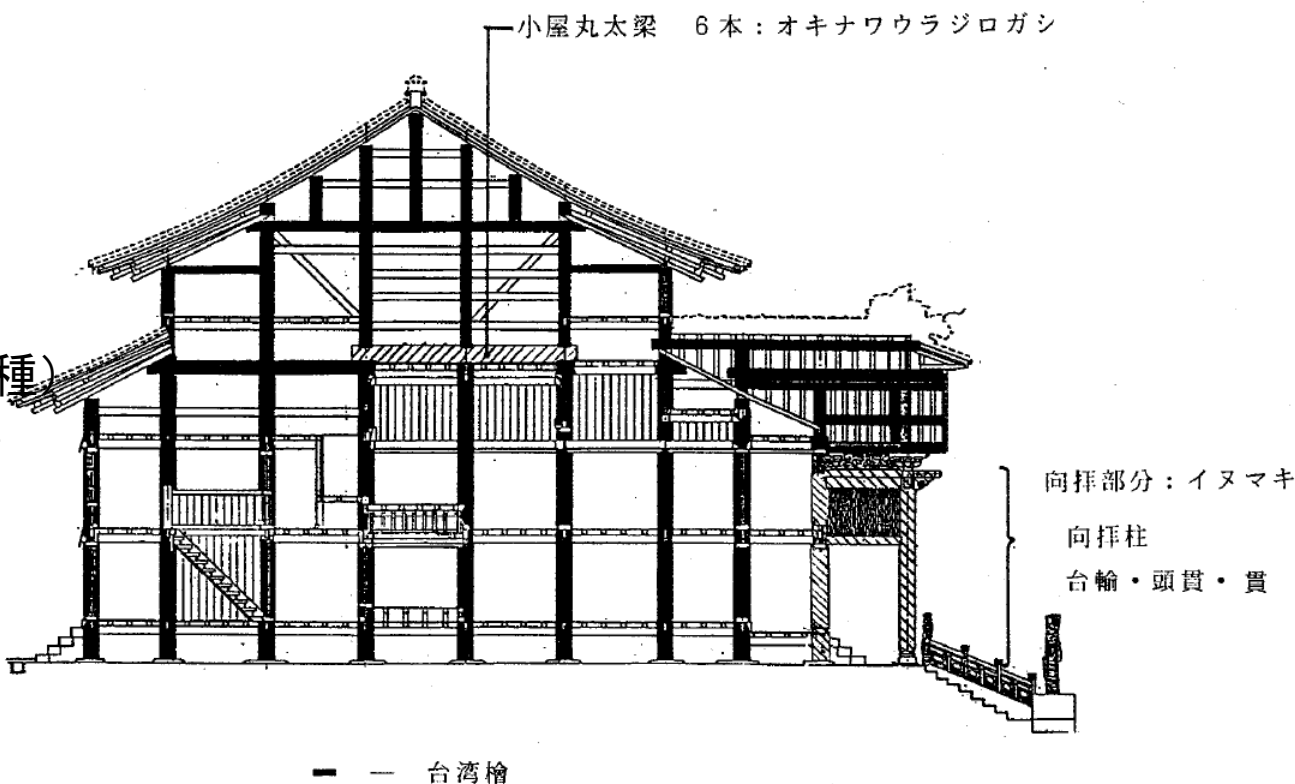








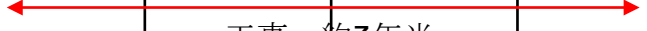
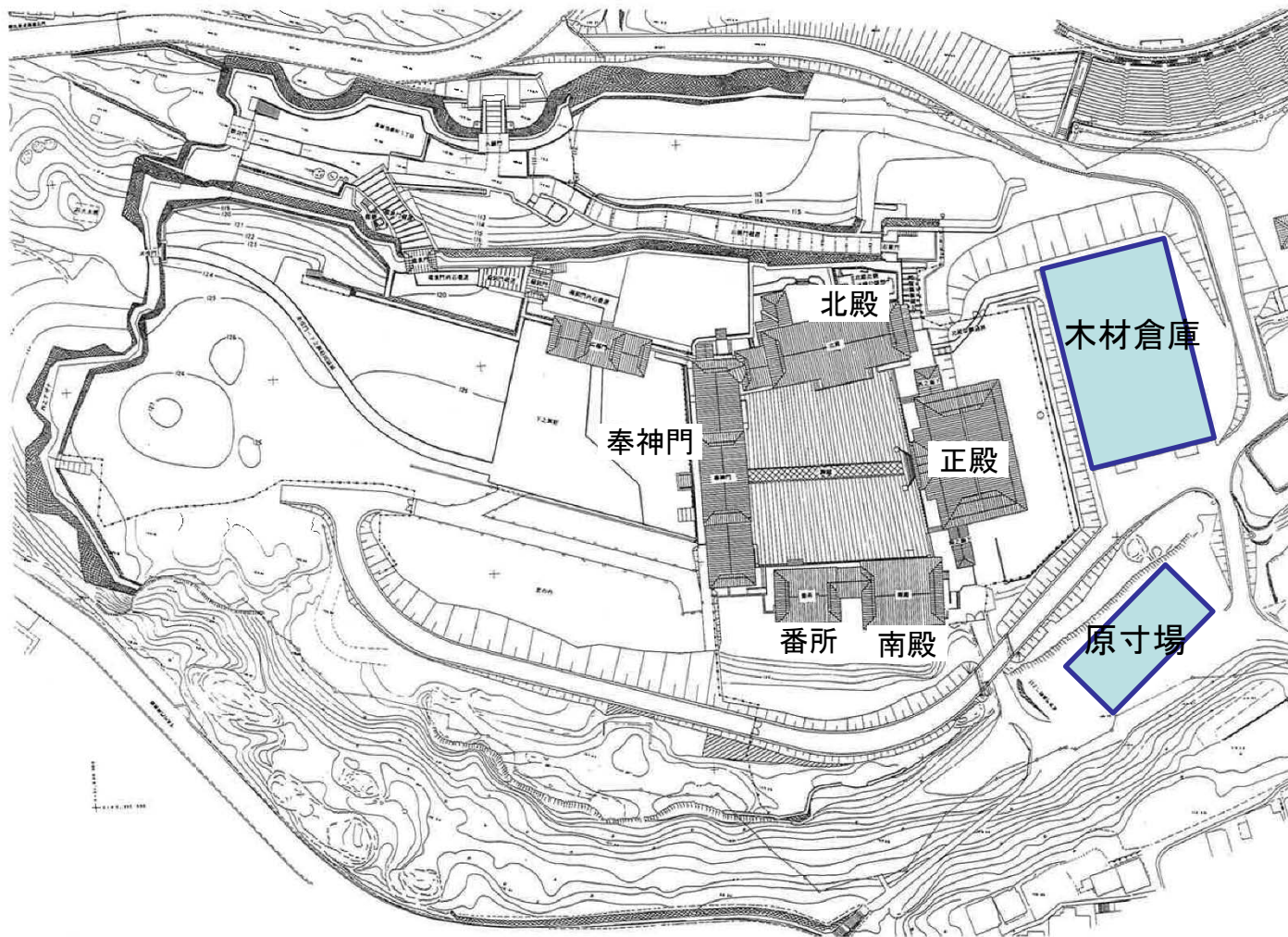


図-1 軸部の樹種

# 前回復元時の調査・設計・工事のスケジュール

	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度
材料調査	 調査：約1年							
設計		正殿  設計：約3年			南殿・北殿・奉神門 			
木材調達								
工事				木材倉庫  仮設道路 		正殿  南殿・北殿・奉神門 		
					 工事：約3年半			

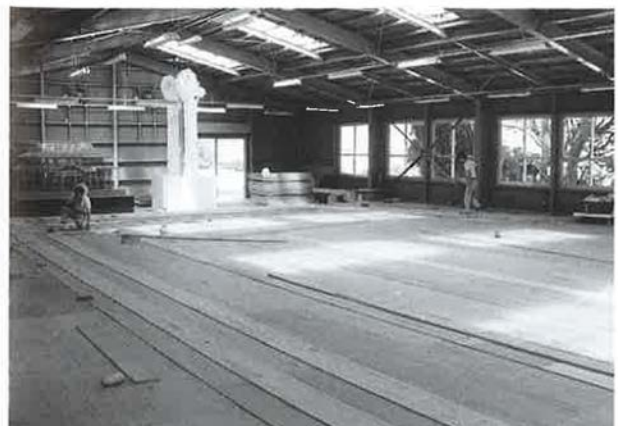
# 前回復元時に仮設した木材倉庫と原寸場について



国営沖縄記念公園首里地区 全体配置図



木材倉庫(木材を保管・加工)



原寸場(原寸大の図面を作成)